

日本遺族会主催

沖縄慰霊行進へ参加して

—平和の尊さ—
青年部 比山 多恵

令和六年六月、第六十三回沖縄平和祈願慰霊大行進に戦没者の孫世代として妹と一緒に参加しました。

前日夜に平和祈念公園で行われる追悼式前夜祭式典では、平和の鐘を鳴らす献鐘者として参列させていただきました。

まずこの機会をいただきましたきっかけは、昨秋行われた日本遺族会女性部の研修会の際、知り合った先輩方から「沖縄の行進があるんですよ！来年一緒に行くうよ！」とお声をかけていただいたものでした。

沖縄で毎年行われる平和行進は聞いたことがありましたが、日本遺族会等が主催する慰霊大行進については初めて知りま

した。
平和行進は沖縄本土復帰

記念日5月15日に平和を願う行進であるイベントだそうですが、私の参加した慰霊大行進は一九四五年(昭和二十年)六月二十三日に沖縄全土で繰り広げられた壮絶で悲惨な戦闘の終結日として沖縄が定めた「慰霊の日」にあわせ、毎年沖縄県民の皆さまと一緒に追悼の意をこめて行進するものだと知りました。

沖縄地方では直前に気象庁の梅雨明け宣言もあり、飛行機を降り立つた際、スチームサウナのような湿度の高い暑さに驚きました。熱中症予防に水分をとることや、睡眠をしっかりとることなど体調面にも配慮して心の準備をしました。

一緒に歩いた八十年代(父と同一世代の遺児の男性)は肩にかけたタオルで汗をふきふきペットボトルの飲料水を口にしながら、それでも逞しく涼しげな顔で私たち世代と同じペースで歩いている姿を見せてくれました。日ごろから足腰を鍛えた元氣

な身体で、行進に望む勇ましいご高齢の先輩方の姿を見て、私などまだまだだなあと感じました。



約四キロの道のりを歩いたゴール地点の平和祈念公園では、正午より沖縄全戦没者追悼式が開催されました。その前夜祭でのことですが、冒頭でもご報告のとおり献鐘者として平和の鐘を鳴らす機会を与えていただくことに恵まれました。

お聞きしましたところなかなかこのような機会に恵まれることはないとのことですが、私は今回一緒に参加した妹と一緒に、またこの行進へ誘っていただき半年ぶりの再会を果たした

女性部の先輩とも一緒に鐘を鳴らすことができたのでした。この幸せなご縁というのは、きつと天国で見守ってくれている沖縄戦で亡くなった祖父の導きに違いないと感じるとともに感謝の気持ちでいっぱいでした。

追悼式では沖縄県立宮古高校の高校生の平和の詩「これから」の朗読に涙し、私たち大人がもつともつと意識を高く持ち続け、平和の尊さを、戦争の悲惨さを、語り継ぐことの大切さを、しみじみと強く思い直す機会となりました。



高知県遺族会報
令和6年10月号掲載